

# “NIDS NEWS”



防衛研究所企画室編集(03-3713-5912)

..... 2011年6月の主な出来事.....

## 〈 第58期一般課程修了式 〉



6月は、昨年9月6日に始まり10ヶ月に及んだ一般課程も最終段階を迎え、講座「日本の防衛」を実施するとともに、研究論文発表会を実施しました。

講座「日本の防衛」として先月に引き続き各政党から安全保障政策を講義いただき、また、特別講義として中江防衛事務次官から「日本の防衛政策」について、折木統合幕僚長から「統合運用」について、北岡東京大学大学院教授

から「日本外交の座標軸について」について講義いただきました。

そして、24日には防衛大臣臨席のもと、省内外の多数のご来賓をお迎えし、修了式を実施しました。式典では、枘田防衛研究所長が研修員一人一人に修了証書を授与し、併せて研究論文優秀者(1等海佐 松岡広哲)に対する表彰を実施するとともに、言語・文化の相違を克服して研修に励んだ留学生に対し褒賞状を授与しました。

所長式辞に続き、防衛大臣訓示、統合幕僚長による来賓祝辞そして最後に研修員を代表し幹事(1等陸佐 川口雅久)による答辞をもって式典は終了しました。

その後、研修員は懇談会のあと職員



の見送りを受け、通り慣れた目黒の地をあとにしました。

### 《 北澤防衛大臣の史料室視察 》

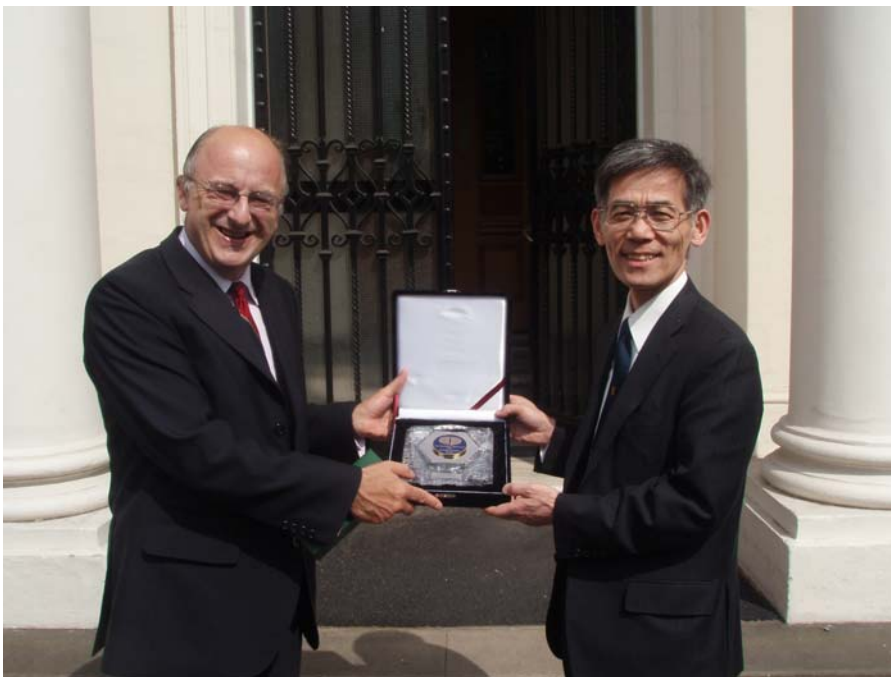


(右から)北澤防衛大臣、金澤大臣官房長、徳地人事教育局長、(左)柴田史料室長

6月24日、一般課程修了式後、北澤防衛大臣が防衛研究所史料室にて、明治三陸地震、昭和三陸地震、関東大震災といった震災関連史料を中心に、旧日本陸海軍関係史料の保有・公開状況を視察しました。

また、6月15日には広田防衛大臣政務官が防衛研究所史料室を視察しました。

### 《 柘田所長のNATO 国防大学国防関係学校長会議出席 》



柘田所長は、5月29日から6月4日の日程で、吉崎研究部上席研究官、鶴岡研究部第7研究室主任研究官とともに、ポーランド(クラクフ)で開催された第40回NATO国防大学国防関係学校長会議(CoC)に、日NATO協力・交流の一環として出席しました。

同会議は、NATO加盟国及びパートナー諸国が参加して毎年開催されているもので、防衛研

究所は2009年の第38回会議から参加しています。今回は、2011年11月の新たなNATO戦略概念の採択を受け、「新戦略概念の高等教育に対する意味合い」が全体テーマとして設定され、ホスト国ポーランドから国防大臣及び軍参謀総長が開会の基調講演を行いました。また、「緊縮財政下の軍教育」、「高等教育を通じた包括的アプローチの運用」、「教育面におけるNATO・国連関

係」、「新戦略概念とパートナーシップ政策」の4つの分科会が開かれ、防研は、パートナーシップに関する第4分科会に参加し、積極的な討議を行いました。

会議においては、各国で国防予算が減少する中でいかなる軍高等教育が求められているのかなどの共通の課題・問題点について活発な議論が行われました。同時に、防研と各国国防大学関係者との間で、将来に向けた関係強化策についても、関係者とインフォーマルな意見交換を行いました。

また、あわせて英国(ロンドン)において、NATO 海上部隊司令部、海賊対処 EU 海軍作戦司令部、RUSI(英国王立統合軍防衛研究所)、RCDS(英国王立国防大学)等を訪問し、海賊問題・海洋安全保障を巡る国際協力について意見交換した他、RUSI 及び RCDS との今後の関係発展の可能性などにつき協議しました。

### 《 防衛戦略研究会議の開催 》



6月6日、平成23年度第1回防衛戦略会議が、グランドヒル市ヶ谷において開催されました。本年度は「日本の国家再構築と安全保障」を年度共通論題としています。今回の会議には、渡邊昭夫議長(平和・安全保障研究所役員会副会長)をはじめとする委員17名の他、防衛研究所から柘田所長以下6名が参加しました。

今回は「防衛戦略研究会の今後の在り方について」と題し、渡邊昭夫議長に報告いただきました。報告の後、参加者の間で議論が交わされました(詳しくは「防衛戦略研究会議概要」をご参照下さい)。

### 《 ICRC 国際平和協力セミナー 》

6月29日、防衛研究所は赤十字国際委員会(ICRC)と共同でICRC国際平和協力セミナー「人道支援活動の現状と展望」を開催しました。

防研講堂で開催されたセミナーでは「人道支援の本質 ICRCの立場から」「自衛隊と人道支援・災害救援活動」「総括討議」の3つのセッションが設けられました。第1セッションでは長嶺義宜ICRC駐日事務所長による講演と太田清彦・研究部第1研究室主任研究官によるコメントが、第2セッションでは木上英輔・研究部第4研究室主任研究官による講演とラリー・メイビーICRCクアラルンプール地域代表部軍事顧問によるコメントが行われました。第3セッションはICRCと防研からの参加者によるパネルディスカッション形式がとられ、会場参加者を交えた活発な討論および質疑応答が行われました。

当日は、ICRCを代表してトビアス・エプレヒトICRCクアラルンプール地域代表部首席代表のほか、防衛省・自衛隊、関係省庁等の専門家約50名が参加し、人道支援・災害救援活動が抱えるさまざまな課題や今後にあり方について活発な議論が行われました。

・・・「史料紹介コーナー」・・・

平成 23 年度は、歴代陸海軍大臣の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

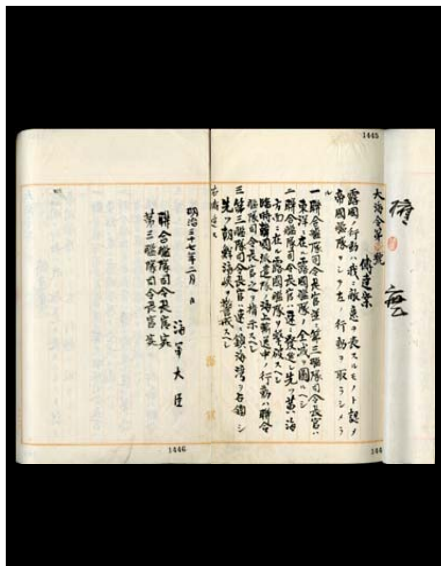
やまもと ごんべえ  
**《 山本 権兵衛 1852～1933年 》**  
 - 海軍大臣として北清事変、日露戦争を戦った日本海軍の父 -



**山本海軍大臣の意見書**

(登録番号：海軍省 - 清国事変 - M33 - 4 - 4)

山本権兵衛大將は、明治 10 年 6 月、海軍少尉に任官、その後、軍務局長、海軍大臣、軍事参議官、内閣総理大臣等を歴任しました。この史料は明治 33 年 6 月、海軍大臣であった同大將( 当時中将 )が、北清事変について山縣内閣総理大臣に進達した意見書です。同書では事変の鎮定方法として、清国政府の威力のみで行う場合、同政府が外国の威力を借りて行う場合、各国が進んで威力を用いる場合の三様があるとし、不幸にして各国が進んで威力を用いる場合を考慮して「列國ニ對シテ帝國ノ主義ヲ表明シ以テ大ニ為スアルノ基礎ヲ固ムヘキ時ニ非スヤ」と日本の同事変に対する方針の早期確立を訴えています。



**宮戦秘綴附大海令( 1 )**

(登録番号：海軍省 - 日露戦書 - M37 - 38 - 6 - 564)

山本大將は海軍大臣として日露戦争を迎えました。この史料は開戦劈頭、同大將( 当時中将 )により伝達された明治 37 年 2 月 5 日付、大海令第 1 号の「傳達案」です。「露國ノ行動ハ我ニ敵意ヲ表スルモノト認メ帝國艦隊ヲシテ左ノ行動ヲ取ラシメラル」として連合艦隊司令長官並びに第 3 艦隊司令長官に対し東洋に在るロシア艦隊の全滅を図るよう命じています。同大海令は封令として事前に手交された後、電報によって開封が命ぜられました。大海令を受領した連合艦隊は翌 6 日、佐世保軍港を出港、8 日から 9 日にかけて旅順及び仁川方面でロシア艦隊との戦闘を開始しました。

**《お知らせ》**

- 1 前号掲載の「寺内正毅」の名前の読みについては、寺内元帥の現役当時に陸軍省が作成した『陸軍現役將校同相當官 實役停年名簿』の記載通り「まさかた」としたものであり、誤植ではありません。
- 2 史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

